

# “トンボはどこまで飛ぶかフォーラム” はどこまで飛んで行くのか？

代表 吉田洋子

私たちフォーラムは企業・市民・大学・専門家・行政などと協働して活動を続けてきました。早いもので来年度は12年目になります。トンボ調査がきっかけで各企業が生物多様性について意識するようになり工場敷地の再整備などに併せてトンボ池が創られたりしてきました。今年度は、(株)東芝京浜事業所、入船公園、北部第二水再生センター、貨物線の森での4箇所新たな水辺が作られています。

10年目の節目には横浜市から「みどりの夢かなえます事業」の助成も受け、素敵な報告書の作成ができました。また企業向けの緑地管理講習会を開催、名古屋の知多半島の生物多様性についての企業の取り組みの見学交流、さらにはシンポジウムなども開催することができました。また10年間の活動成果が認められて横浜市環境活動賞大賞および生物多様性特別賞もいただくことができました。さらには国からも環境賞をいただきました。

これらは大きな励みとなり活動を継続しています。

来年度は「かんきょう横浜」の雑誌連載も決まりこの活動がひろがっていくことが期待されます。フォーラムのメンバーは大企業が多いので中小企業では取り組めないのではないかと思われる方もいると思いますが本当に小さなトンボ池でもトンボは飛んできますしそうした企業緑地が生物多様性という観点で地域に与える影響も大きいことがフォーラムの活動で実証されましたので是非仲間に入っていただければと思います。

今年度は京浜臨海部のトンボが川崎の夢見ヶ崎動物公園まで飛んだことがわかりました。もっともっと多くの企業緑地がネットワークし、トンボが飛び交うまちを夢見たいと思います。どうぞ皆様この活動にご参加ください。

## 2013年度 トンボはどこまで飛ぶかフォーラム 活動内容

2013 4月	○第1回拡大運営委員会 24日 活動計画、助成申請の決定
5月	○第2回拡大運営委員会 6日 調査実施要領 人員配置等の検討
6月	○第3回拡大運営委員会 10日 調査実施要領 人員配置等の決定
7月	○生態調査(京浜臨海部 7月29日(月)～ 8月4日(日)) ○トンボ捕り大作戦 17日(土)入船公園
8月	○生態調査(内陸部) 8月19日(月)～23日(金)
9月	
10月	
11月	○いい川・いい川づくりワークショップ参加 2日(土) 3日(日) 活動発表表 ○第4回拡大運営委員会 9日 生態調査、トンボ捕り大作戦振り返り
12月	○第5回拡大運営委員会 9日 報告会準備
2014 1月	○活動報告会 22日(東京ガス環境エネルギー館) 調査成果報告、パネル展、ワークショップ、 生き物救出
2月	
3月	

# 活動 ダイジェスト

## 今年度の 調査成果の趣言

田口正男

2013年調査の捕獲結果は、臨海部8地点が9種337頭、内陸2池(三ツ池+二ツ池)が10種309頭でした。臨海部の種類数は毎年10種前後なので、2013年も安定していたと言えます。しかし、個体数はというと、浮遊するウスバキトンボを除くと221頭と前年の437頭から半減し、過去最低に近い状況となりました。ただ、地点数の減少、天候・調査員問題があつたので、これらを考慮するとトンボそのものの減少はないと判断しています。

過去11年間の捕獲結果は合計22種6208頭です。企業や公園の緑地が若い個体や雌の生活の場となつていくことが確認され、こうした地域での里山的役割をはたしていることがわかりました。また、新たな池や湿地では2〜3年でトンボ目群集が形成され、一方でマルタンヤマ、ウチワヤンマなどの新たな種の出現がみられました。チヨウトンボでは拡大した分布が維持され、加えて移動観察例も5種11個体になりました。最優占種のシオカラトンボと

シヨウジヨウトンボの間では、なんと種交代に似た現象さえおきています。トンボネットワークの検証は着実に進んでいるのです。2013年には臨海部の水田から全国的に減少が伝えられるアキアカネが多数発生し、活動の主眼であつた自然再生から、トンボ種の供給という新たな貢献段階が見えてきたのは大きな収穫です。

2011年より加わつた内陸2池の調査は3年目となり、臨海部との個体の交流、そして独自の群集形成が確認されました。希少種が多く、しかもトンボの中継地、種の供給・保存空間、そして文化遺産としての特徴があります。こうした水域が隣接して存在することは、この地域全体の自然再生にとつてとても重要です。温帯の、しかも生物多様性のあまり高くない地域においても独自の生物多様性が求められるなか、本活動の今日的意義は大きいものと思われま

## トンボ生態調査 の意義

トンボの翅に数字でマークをつけて追跡するマーケティング調査法を使ってトンボの行動を調べること、地域内に生息しているトンボの種類や変化、トンボの移動範囲や臨海部と内陸部の自然環境のつながりなどが分かつてきました。

市民ボランティアによる調査を専門家が学術的に検証することによつて、活動に参加する企業事業所の緑地やトンボ池が京浜臨海部の生態系に与えている影響を具体的なデータとして示すことができ、企業のCSR活動の評価として役立てていただいています。

企業の努力によつてトンボの生息環境が改善されていることが明らかになることで、新たな企業緑地、トンボ池の整備などが推進され、京浜臨海部でのビオトープネットワークの質のさらなる向上が図られています。また、市民や企業が調査に参加することで、身近な自然にふれあい、生物多様性の大切さを知る貴重な場の提供にもなっています。



東京ガス(株)環境エネルギー館

調査地点	7月			8月						
	29	30	31	1	2	3	4	7	8	9
キリンビール		○	○	○						
東京ガス		○	○	○						
JFEトンボみち	○	○	○							
JVCケンウッド	○	○	○							
マツダ	○	○	○							
入船公園					○	○	○			
横浜SF高校								○	○	○
北二	○			○	○	○	○	○	○	○
三ツ池				19	20	21	22	23	24	
二ツ池				○	○	○	○	○	○	

トンボはドコまで飛ぶか調査2013(本調査)

◆調査日程・調査場所

京浜臨海部：7月29日(月)～8月9日(金)

内陸部：8月19日(月)～8月24日(土)

調査場所別調査日程：左表による。

◆調査時間：開始…9時、終了…12時

◆調査参加者数 調査期間合計 延べ150名



三ツ池公園